富士山・大根・2児の父（FD2）。

渡辺（わたなべ）ふじお 富士雄

新

エフディツー信

Vol.2

NEW KOMEITO

いたんだね、こんな人

渡辺ふじお５つの挑戦！

ずいぶんと便利になった私達の暮らし。
でも、その発展とともに失われたものや、ちょっとさびしい思いをすることも多くなったのではないでしょうか。
情報技術の進展、急速にすすむ少子・高齢化、深刻な環境問題や、交通・防犯などの安全の危機などの社会環境の変化に対応した、安心で豊かな街づくりが求められていると思います。税金のむだづかいをやめ、区民の皆さんが参加できる区政、そして環境を守り将来の不安を解消できる街づくりを目指したいと思います。
これから皆さんの意見をいただきながら、一緒に明日の杉並を築いて参りたいと思います。今、つたないながらも次の項目について、取り組んでいこうと考えています。皆さまのご意見をお聞かせください。

1. むだゼロ、納得区政宣言　税金のムダ遣いのない、住民参加の区政
2. みどりの街宣言　環境を守り自然豊かな杉並をつくる
3. あんしんの街宣言　命を守りはぐくむ杉並をめざす
4. ゆたかな街宣言　健康で豊かな生活をはぐくむ
5. げんきな街宣言　子供も中小企業もげんきをめざす

渡辺ふじお物語 1

「笑いが消えた日」

突然の苦境。それをどう受け止め、立ち向かっていくか、そのとき、人の真価が問われるのかもしれない。

「なべちゃん。大根踊りやって」。「あいよ！」と、渡辺ふじおはすっと立ちあがった。大根を手に、歌を歌い、身振り手振りで踊りだす。東京農業大学の学生時代に身につけたものだ。飲み会となると、リクエストされる。いい歳して少々みっともない、と思っても請われると、体が反応してしまう。皆が楽しければ、それでいいと思う。拍手喝采を浴びて席に戻ると、親しみやすい温かな笑顔がそこにあった。

ケータイが鳴りだす。妻の敦子からだ。「大城の様子がおかしいの。とても苦しそうで、病院に連れていくから、あとで来て」。大城は、二歳になる息子。もともと、あまり体は丈夫なほうではなかった。ふじおはさほど深刻に考えず、病院へ向かった。

「喘息？」。医師の言葉は耳を疑うものであった。「なぜこんなになるまでほっといたんです？　あと一時間遅ければ、命が危なかった」。ふじおは背筋が凍りつくのがわかった。しかし、運命の不意打ちはこれで終わらなかった。

大城が三歳児の定期検診の時だった。目に異常があると告げられ、精密検査を受けた。「先天性白内障です。このままだと視力が損なわれます。いずれ手術をしなければならないでしょう」との宣告にふじおも妻の敦子も言葉を失った。なぜ我が子が？　ぶつけようのない怒りが抑えても抑えても湧きあがってくる。

喘息に白内障。あまりに酷い現実。手術をしても、この先、どんな障害が待ちうけているかわからない。きっと、ハンディキャップを背負い、生きていくことになるだろう。我が子の行く末を思うと、ふじおは胸が掻きむしられる思いだった。結婚後、大きな問題もなく過ごしてきた。いつまでも、こんな平穏な日々が続くであろうと思われた。そんな平凡な家族に訪れた大きな試練だった。

裏面につづく